

山縣有朋關係文書

山縣有朋
壹
17

山縣公別荘記
宮中に於ける山縣公の功績
高橋藩
清浦奎吾氏談
子爵

59

19

山縣公

別
之
誌

高橋嘉庵
撰

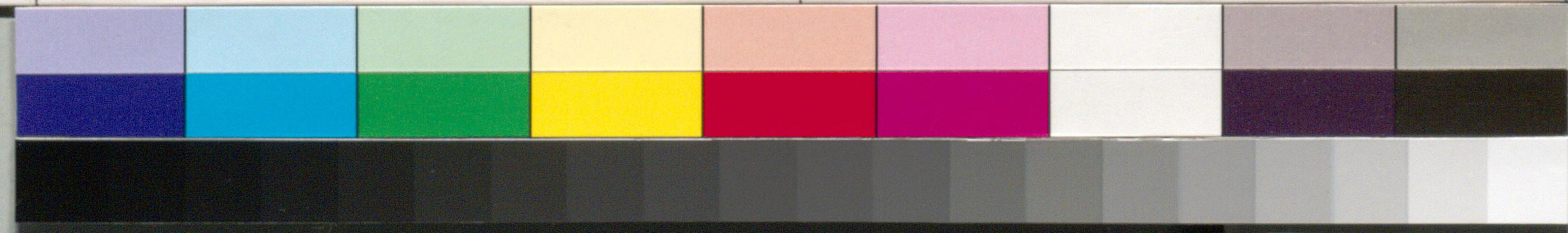
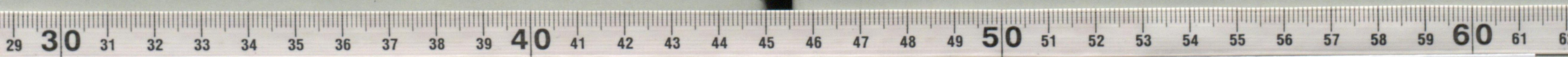


山縣有朋伝記編纂資料



225786

225787



洛東無隣庵

洛東無隣庵ハ山縣公ノ別業ナリ

之ヲ造ラレタハ明治八年頃ナリ

少南禪寺松原田ノ北側ヲ甄亭ト云ヘシ

積亭ト道路ヲ隔テ、相對シテ店ニ、東山

ト大文字山ヲ指景ニシ琵琶湖疏水ノ右流

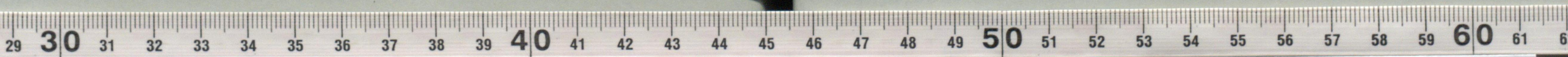
ヲ庭前ニ引キ泉石ノ布置結構ハ餘テ老公

自カノ指回テ了シ但シ老公ノ築庭トシテ

山縣公史實調査會用紙

其の... 山縣公史實調査會用紙

山縣公史實調査會用紙



八	其	女	作	二	扇	ス	レ	者	外	か	糸	糸	糸	糸	一	條
五	子	經	テ	居	レ	且	シ	所	ト	遺	水	ト	背	景	一	條
二	柏	子	加	植	テ	居	レ	カ	ウ	面	積	ニ	餘	テ	広	カ
二	規	模	ニ	至	ク	テ	ハ	ヤ	イ	モ	ノ	テ	ハ	レ	ハ	明
レ	洛	本	ノ	一	名	園	ヲ	了	レ	珠	ニ	以	庭	前	ニ	ハ
レ	大	帝	ヨ	リ	心	ニ	賜	リ	タ	レ	京	都	作	所	ノ	権
二	株	が	植	テ	レ	一	段	瓦	移	テ	放	テ	居	レ	ハ	
骨	庵	ノ	建	物	ハ	至	テ	午	棟	ヲ	玄	園	ヲ	リ	附	窓

レ	東	山	ヲ	背	景	ト	シ	ハ	奥	深	キ	庭	ノ	造	向	
室	カ	ア	レ	心	ノ	二	テ	ア	レ	今	先	ツ	客	同	ニ	置
外	レ	ハ	南	午	ニ	離	レ	テ	水	産	附	三	疊	台	同	ノ
老	公	ノ	院	寔	室	ト	セ	テ	七	フ	ベ	キ	ニ	テ	ア	レ
廊	下	傳	ヒ	ニ	南	方	ニ	離	レ	テ	建	タ	レ	西	河	鉞
敷	ハ	老	公	ノ	居	間	幕	客	座	敷	ナ	リ	又	玄	園	ヨ
秋	ニ	庭	前	ニ	寔	出	テ	タ	レ	レ	レ	間	附	十	疊	ノ
次	ノ	間	附	ノ	八	疊	ハ	合	室	ノ	間	是	ヨ	リ	鍵	ノ

天	駒	し	途	方	直	瀑	七
ノ	ノ	斗	ヲ	ノ	ノ	加	ノ
ト	ノ	ん	結	ノ	座	勢	大
兩	ノ	ん	リ	ノ	敷	々	樹
水	下	天	ハ	ノ	ノ	ト	ノ
相	流	ノ	店	樹	方	コ	間
后	加	ト	ノ	木	ノ	ノ	ノ
シ	別	他	ノ	ノ	間	流	既
干	ニ	ノ	一	ノ	ノ	レ	ニ
幅	庭	方	方	奔	流	落	屈
店	ノ	ノ	ノ	リ	来	于	曲
キ	南	ハ	南	込	リ	其	シ
流	方	南	禪	石	中	下	干
レ	ノ	禪	八	ノ	途	水	幅
ハ	流	ノ	裏	ノ	日	ハ	廣
成	レ	裏	干	控	リ	最	々
リ	ハ	干	ノ	キ	一	初	大
是	ハ	ノ				奥	

レ	ノ	十	ノ	宮	ノ	レ	レ
ヨ	築	々	築	現	的	レ	レ
リ	庭	庭	庭	レ	的	ノ	レ
庭	的	ハ	庭	ノ	理	レ	レ
外	想	庭	ノ	レ	想	ハ	レ
ニ	ハ	ノ	派	レ	ハ	レ	レ
出	レ	派	ス	レ	レ	レ	レ
テ	レ	ス	ト	レ	レ	レ	レ
道	レ	ト	宣	レ	レ	レ	レ
路	レ	言	言	レ	レ	レ	レ
ヲ	レ	シ	レ	レ	レ	レ	レ
隔	レ	片	レ	レ	レ	レ	レ
口	レ	ウ	レ	レ	レ	レ	レ
ハ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ
瓢	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ
亭	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ
ノ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ
庭	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ

ノ	切	新	カ	心	テ	住	踏
事	老	之	一	ト	ケ	宅	し
之	公	無	即	ヤ	地	テ	久
為	自	隣	男	思	以	他	が
々	為	庵	之	ハ	テ	ノ	其
ハ	ノ	ヲ	讓	レ	テ	一	後
植	指	経	南	ケ	我	部	片
治	同	学	禪	ン	が	か	ノ
ハ	テ	セ	寺	木	築	水	無
古	其	ウ	門	屋	ノ	田	隣
フ	ノ	レ	前	所	理	ト	庵
植	指	カ	再	ノ	想	為	ノ
本	同	張	一	方	ヲ	テ	一
良	ニ	リ	ノ	ヲ	バ	居	部
テ	テ	ハ	北	ハ	故	タ	カ
ア	築	一	側	川	田	ノ	或
ソ	庵			田	足	ヲ	人
						尺	ノ

夕	無	間	大	ノ	ト	元	ケ
	隣	ノ	本	フ	古	古	レ
	庵	南	ノ	フ	フ	同	一
	庭	面	ア	ア	ノ	同	段
	前	ニ	ル	ル	南	南	月
	ニ	根	ル	ル	面	面	出
	ハ	幹	ル	ル	ル	ル	度
	二	蟠	ル	ル	ル	ル	ヲ
	ノ	居	ル	ル	ル	ル	思
	名	ス	ル	ル	ル	ル	ハ
	初	ル	ル	ル	ル	ル	ル
	カ	楠	ル	ル	ル	ル	ル
	ア	老	ル	ル	ル	ル	ル
	ル	大	ル	ル	ル	ル	ル
	即	樹	ル	ル	ル	ル	ル
	テ	カ	ル	ル	ル	ル	ル
	テ	其	ル	ル	ル	ル	ル
	客	其	ル	ル	ル	ル	ル



レ	佛	造	場	キ	ノ	ル	ノ
メ	殿	セ	ノ	エ	大	目	一
一	ノ	ウ	物	ノ	石	方	ッ
カ	石	ル	語	テ	ハ	一	ハ
ト	垣	ル	リ	之	無	万	庭
間	ヲ	ヤ	カ	テ	隣	貫	ノ
セ	見	一	ア	之	庵	ハ	東
管	テ	日	ル	テ	庭	前	北
サ	其	豊	初	テ	前	ノ	方
シ	大	大	ト	柱	ノ	主	ニ
メ	石	閣	老	致	人	公	山
カ	ハ	ノ	公	ス	ト	ト	魏
是	何	経	ノ	ル	モ	大	峯
ハ	處	学	無	ニ	古	石	ト
其	カ	ニ	隣	テ	ク	テ	テ
智	う	係	庵	一	フ	ア	時
	運	ハ	ヲ		ベ	ル	立
	ハ		築			ル	ス

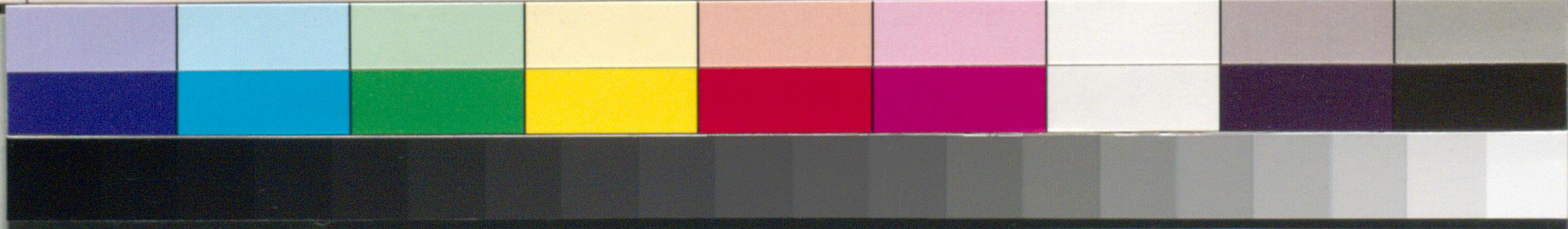
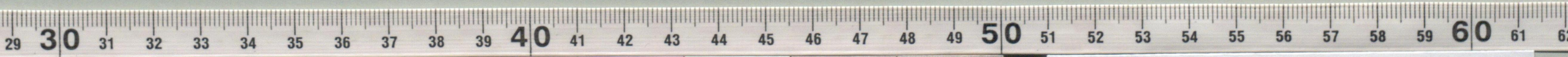
時	言	シ	加	テ	二	二	二
殿	フ	実	固	牽	障	用	障
翻	コ	地	ヨ	キ	案	雑	案
ノ	ト	様	リ	来	初	ヲ	初
山	ヲ	帛	氷	心	カ	カ	カ
奥	カ	ノ	常	ニ	カ	カ	カ
ヨ	シ	上	ノ	直	カ	カ	カ
リ	テ	益	大	路	カ	カ	カ
引	公	ニ	石	か	カ	カ	カ
カ	ハ	石	十	人	カ	カ	カ
レ	ハ	ニ	レ	リ	カ	カ	カ
メ	傾	看	バ	テ	カ	カ	カ
モ	カ	月	牛	運	カ	カ	カ
ノ	コ	セ	木	搬	カ	カ	カ
テ	興	テ	四	上	カ	カ	カ
山	味	テ	頭	水	カ	カ	カ
科	リ	レ	ヲ	常	カ	カ	カ
ノ	備	ル	以		カ	カ	カ



山縣公別荘記
官中に於ける山縣公の功績
合せて一冊

(山)

(功)



国立国会図書館 山縣有朋伝記編纂資料(写本) 17
挟み込み物

寧居。丁卯，歲四疆之事，稍息。今於吉田
 山宮之南，築小屋，命曰無隣庵。其地泉
 清，砂白，鏡以松竹，幽邃深窈，四無隣
 。並有詩曰：清水山前素市曩，疎松寂
 竹，青々。有人若問吾茅屋，一徑斜
 木橋。然京師國東之事，殷憂未已，
 其後公位在內，
 中，國勢大變，无日再明。其後公位
 閣，政々求治，未曾得後樂之境也。今

茲幸卯。卜別業於京師鴨川西涯，高漸
 川分流，老樹重陰，水行其際，苔翠
 之色。潺湲之聲，终日洗耳，殆忘在都
 阿塵中矣。公後以旧号名其居，蓋追憶
 往事，不能忍懷。故以明不忘旧之意也。
 命居書其扁。因再記其由尔。
 無隣庵。ハ老公加京都ニ於テ最初ニ獲
 夕別業ヲ木庵ナリニ條際ニアツカ其

後今ハ現今ノ無隣庵ニ引移テニ猶旧庵石

ヲ存セリ。明治廿九年公自テ文ヲ撰シ高

島九嶺并カ之ニ書シテ右通款ノ未尾ニ添

一ノシタ其文ハ此ノ通りナリ。

予曾卜地于鴨屋。告一ノ廬。痛長ニ洲

。書無隣庵旧跡。以爲匾。即以額也。

蓋距序七年矣。後三歲。厥其地特開。

更相山出北海之安。定爲今店。俟再炊

五洲。而今其没。因揭旧匾於捐間。願

三洲。曾左居竭力於國家多難之時。今

也。則亡。每対以匾。未嘗不想起其人也。

明治二十九年十月春居士識

九嶺高島張書

◇

無隣庵ノ庭前ニハ明治大帝ヨリ老公ニ賜

ハノニ株ノ榊松ガアツキ其傍ニ老公自撰

山	遇		其	レ	ル	テ	ノ
陽	人		全	種	文	テ	コ
の	休		文	松	章	リ	ト
秋	問	清	の	科	テ	ル	ト
心	南	賜	揚	領	之	ル	ト
に	禪	推	ヶ	ノ	ヲ	而	ト
了	寺	松	ヤ	歎	一	シ	ト
在		の	ウ	末	読	テ	ト
本	一	記		が	ム	其	ト
の	帯			明	レ	記	ト
力	青			瞭	心	文	ト
に	松			フ	無	ハ	ト
何	路			心	隣	真	ト
々	不			カ	庵	ニ	ト
々	迷			ウ	ノ	優	ト
に	と			今	風景	惟	ト
	頼			在	並	ナ	ト

魏	の		と	陰	坂	細	に
琶	細	自	、	と	子	也	に
湖	也	然	年	と	は	流	に
の	か	の	こ	坂	は	水	に
疏	つ	風	ろ	の	け	あり	に
水	さ	致	草	水	水	、	に
と	う	に	廬	と	に	草	に
松	の	は	を	友	さ	川	に
松	切	富	結	と	水	と	に
深	ら	み	心	一	了	古	に
也	心	た	無	二	孕	新	に
あ	地	し	隣	老	口	、	に
たり	す	、	庵	を	あ	風	に
に	水	坂	と	送	る	の	に
引	は	の	名	ら	、	幽	に
入	は	水	け	ば	け	澗	に



草	た	酒	詠	の	其	、	た
塵	は	を	一	類	の	、	ち
の	に	酌	、	あ	狭	、	し
成	に	み	あ	る	き	園	あ
り	世	、	は	は	に	に	は
た	の	時	茶	を	は	万	小
る	塵	に	を	品	文	象	か
事	洗	古	を	し	を	を	き
あ	ふ	片	談	碁	よ	こ	は
も	の	を	論	と	み	め	雨
ほ	み	か	す	囲	夕	、	の
之	か	は	る	み	に	進	け
が	、	、	た	、	は	途	し
、	さ	、	は	、	教	の	り
、	る	、	は	、	を	中	た
、	に	、	は	、	に	に	り
、	、	、	、	、	、	、	、

こ	し	こ	こ	こ	こ	こ	こ
の	の	の	の	の	の	の	の
成	成	成	成	成	成	成	成
り	り	り	り	り	り	り	り
た	た	た	た	た	た	た	た
る	る	る	る	る	る	る	る
事	事	事	事	事	事	事	事
あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ
も	も	も	も	も	も	も	も
ほ	ほ	ほ	ほ	ほ	ほ	ほ	ほ
之	之	之	之	之	之	之	之
が	が	が	が	が	が	が	が
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、

京の宮庭の松をいぬる

山翁有明にあくりけるに

く生しけりちりて字真をえ

せたるにゆめる

かくりは若木の松のしけりあゝ

老のちとせの友とならむ

あはれ今より樹石をたもみりての澄は

長くけ園をあはれに十年をよばお松風の

もとにあまのたのしさは

あつそや限りたまよりのああり

よみわたるまゆりたるえそ

あまのあかまの松かえ

老のたすれに千年のな

あいにけれ松よ大臣の

めくまの露のかさるゆい

この得かたそまめくみをとるころ

のもと
あつさ
か
か
つ
け
この
庭の

池
倉
と
は
所
一
ぬ

明治
三
十
四
年
十
一
月

去
長
節
前
一
日

無
隣
庵
主
有
朋

● 檜山荘記

公
が
以
莊
を
傳
へ
た
は
今
より
二
十
餘
年
前
の

こ
の
に
つ
き
公
自
撰
の
檜
山
荘
記
を
再
考
す
る

一
節
を
引
く

明治
十
年
西
南
の
亂
既
に
平
ら
き
河
内
を
す

暇
日
屢
と
城
地
月
白
の
台
に
遊
む
地
形
に
異

な
り
あ
ら
む
を
是
し
之
を
問
は
ば
即
ち
古
の

高
橋
山
や
り
北
を
負
む
南
に
向
き
來
壇
院

分	の	二	口	店	る	山	上	松	柏	楓	椿	欒	蒼	々	二
て	辰	の	廣	衰	凡	て	一	下	八	千	歩	淡	山	七	の
こ	と	と	徳	抄	心	お	乃	ち	層	宇	を	増	築	一	二
子	何	り	後	十	餘	嶺	劇	職	を	解	其	散	地	に	秋
と	何	り	命	一	二	掃	山	莊	と	回	子	。	旧	杯	に
旧	宅	に	す	り	二	之	を	新	り	以	二	遊	息	の	所
藁	を	地	に	購	ひ	荆	橋	を	開	路	を	狐	狸	を	駟
敵	鎬	山	の	稱	あり	余	甚	た	之	を	牛	一	二	道	に

天	に	美	し	昏	晨	晦	明	変	化	の	妙	極	り	何	し
り	山	下	に	湧	き	出	で	潺	湲	々	二	玉	を	要	
ち	下	流	は	即	ち	懸	つ	二	而	し	二	流	々	何	り
へ	二	即	一	二	潭	々	何	り	珍	井	怪	石	四	面	を
鏡	し	蕭	荷	蕪	蕪	若	秋	采	括	の	席	見	。	可	也
り	山	基	た	字	か	い	ち	心	ご	も	岡	陵	に	依	る
即	一	二	崎	々	の	故	に	其	言	を	足	る	水	甚	た
深	の	り	さ	み	々	の	山	下	に	在	る	二	灘	。	の
故															

一	道	あり	時	の	風	湖	し	こ	の	閑	を	散	す	の	市
七	勝	の	月	を	定	む	詩	歌	に	結	ぶ	の	多	く	歎
に	登	水	の	泉	第一	の	曠	に	集	る	余	雲	を	流	す
後	一	の	山	一	富士	の	峰	を	其	上	に	足	る	卯	
其	西	南	は	早	稲	田	村	あり	林	巖	塚	院	人	家	由
若	し	古	水	橋	に	依	り	て	仰	一	て	望	め	以	別
に	其	深	き	を	定	む	力	布	星	自	然	の	勢	然	り

右	記	文	中	に	七	勝	の	稱	す	は	富	岳	薄	雪	蕉
庵	夜	雨	駐	橋	の	照	早	稲	田	の	雁	運	岬	晚	
鐘	関	口	秋	月	言	田	晴	嵐	に	一	て	多	く	以	莊
外	の	名	勝	に	属	す	小	の	更	に	莊	内	の	景	勝
市	の	乙	竹	裏	淡	涵	翠	池	三	又	松	芙蓉	亭		
天	狗	松	醜	秋	瀑	延	年	橋	古	香	井	雪			
錦	池	指	香	亭	の	十	勝	を	得	る	小	の	方	水	
吉	園	家	より	在	好	し	て	竹	樹	幽	遠	た	る	竹	裏

淡	の	辺	と	過	り	古	香	井	畔	より	徳	秋	瀑	上	と	足
上	く	小	は	杉	の	間	の	眩	き	ほ	か	り	染	ぬ	ぬ	ぬ
た	り	紅	鳥	の	足	事	を	得	し	言	は	小	す	更	に	進
び	延	年	橋	に	お	つ	小	は	雲	錦	池	と	因	り	た	る
楓	の	花	並	さ	雄	山	の	風	趣	を	帯	い	た	る	正	しく
融	楓	の	一	の	場	所	た	る	べ	し	橋	畔	に	は	例	の
山	記	の	石	牌	あり	り	如	し	南	雨	の	言	は	上	に	光
り	所	謂	云	狗	松	の	下	を	潜	り	栗	の	涵	翠	池	辺

下	り	再	び	互	射	の	方	上	に	攀	り	上	小	は	即	ち
書	院	前	に	て	攀	然	と	り	三	又	松	の	馬	蹄	状	を
し	か	る	池	を	隔	り	て	天	狗	松	と	呼	應	す	る	水
年	吉	の	名	状	す	る	所	に	あ	り	す	公	曾	の	人	に
清	り	て	吾	若	し	白	人	た	り	ば	早	稲	田	一	村	と
山	邊	に	て	と	一	面	の	池	と	何	れ	に	横	山	の	の
風	致	を	添	へ	し	新	く	て	こ	を	掃	ぬ	花	も	好	ぬ
吾	等	の	名	園	た	る	け	ん	と	言	は	ぬ	た	る	こ	と



あ	し	か	一	た	ら	る	が	い	ま	の	所	言
の	河	に	ま	を	得	た	る	を	た	ら	る	目
に	分	の	自	控	に	係	る	様	の	末	尾	の
第	は	膏	泥	に	結	す	る	所	感	を	最	も
の	竹	下	は	た	ら	る	を	抄	記	す		
若	水	也	の	山	水	を	築	む	の	僻	邑	趣
に	求	め	る	所	以	の	由	し	と	す	天	の
別	ち	之	を	都	内	味	天	の	外	に	得	人
											工	土
											伍	分

和	一	し	不	し	て	天	造	の	勝	を	專	り
我	に	幸	れ	る	所	以	の	由	し	と	す	天
目	つ	余	が	壯	雷	後	に	徑	事	し	躬	先
出	た	る	者	屢	今	年	既	に	耳	順	世	に
坂	く	外	に	待	つ	坂	く	望	た	ら	る	深
坂	を	銘	一	通	達	味	傲	し	て	以	て	た
の	豈	昭	代	の	誇	流	に	水	が	や	老	朽
も	行	能	く	馬	に	跨	か	り	節	を	馳	驅
											し	勞
											倦	

を定之たりは蓋し山水亦靈の氣外に處
ふ所ありて然るあり知りて後のや心居
るもの能く甚天を全ふしてや山水を崇
み以て年の適を同おすよのあやか
廿八年四月日露戦争の要最中今は考課活
長うして採録殊の外精劇なりは五帝所の
伍富のありて梅の花の帰へる心す
何のあぬの縁のゆきとに就此

鏡のあとき
守く心地

と
源
の
事
に
橋
す

花の頃山新去福のべしとの釣めあは

竹影月光婁情を

こ
も
う
た
な
か
は
喉
を
け
り
我
の
心
の

花
の
心
は
己
の
ありけり

何
と
詠
み
あ
る
馬
に
一
鞭
走
ら
せ
日
せ
可

申
ら
存
一
坊
あ
る
軍
常
に
西
り
跡
心
存
記
に

三月廿一日 既に満月を觀るに如く候に候に

の満月を觀るに如く候に候に候に候に

字に觀るに如く候に候に候に候に

算之不一

四月十五日

榎山荘主 明

可ばな候に候に候に候に候に候に候に

来たりうまに鞍あけ日の月懐いと而しる

きに兵馬控俣の中この横架脚詩のたぶ

簡に候に候に候に候に候に候に候に

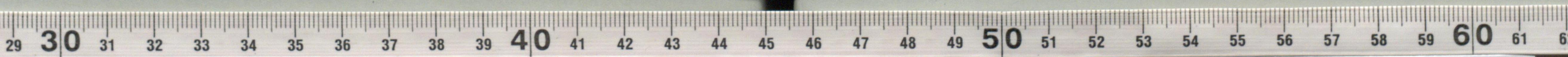
に横山前には候に候に候に候に候に

山新記中に其健康の横山花の山水に負ふ

所多しに候に候に候に候に候に候に

合新の風景に君よ交多し候に候に

訪に来り候に候に候に候に候に候に



山縣有朋實訓在會冊終

花さかすけしほら山かくし庭

あけくりを杉の木の間の流り池を

光のみにて花ぶほたるのたふ

三月月は細くあけつらきと

今年あじはきり松のたが之れ

あけぬけはすけりせきふらと

あけつらきとき

Handwritten text in a large grid format, likely bleed-through from the reverse side of the page.



清浦奎吾子説

山縣公の字中に於ける功績

子爵清浦奎吾子談

山縣公の文官としての勤功たる事績

は、つ、つ、つ、は、た、作、業、を、了、す、る、事、業、に

つ、つ、つ、は、た、作、業、を、了、す、る、事、業、に

つ、つ、つ、は、た、作、業、を、了、す、る、事、業、に

つ、つ、つ、は、た、作、業、を、了、す、る、事、業、に

つ、つ、つ、は、た、作、業、を、了、す、る、事、業、に

山縣公史實調査會用紙

山縣公史實調査會用紙

と思ふ

◇山縣公が軍市上は分端國家最大の務

に一つには極に寛く忠誠を励けし

ことには今更に申す迄も好いこと

かとの宮中にはけし重要なる事

の専ら献替すべしなりは伊藤公

の翌後このかたの事即ち去る迄の

の重要なる所は伊藤公の

陛下の御下向の事

の伊藤公の翌後は専ら山縣公に

の重要なる所は伊藤公の翌後は

の存しよりを申すに

東宮殿下の御外遊は

さしはま謂宮中の事大向

水た中法婚及に

さしは伊藤公の翌後は



其他東宮太子たりし後尾子齋行とも殿下

り原諒の法に悪くは言はれりか今

田中馬教習の所申違ふ事一二年し

〜より小を終らせり小〜も決して違ひ決〜も

云々この高早編位は是れは存の皇

流は神聖にして思ふ〜も〜も

日船〜は一天義上の帝位に即ちせり

東宮御下加り心々皇の毛唐人の皇子

心徳に守出極けりたつて工文イもし小叔

心アノ七ヶのこやの千と握手さ小のけ

心この外れとさおか此の音見もあつて外

心諸國忠の歌山満や内用長平行しか一

心解の意徳端を振まけし端語の要滑日父

心在りす時心盡く扱はす日を在玉續の内

心いん心得殊に隆下は今や滑不例に下

心せうきし心何ぢいかにあつて病氣に

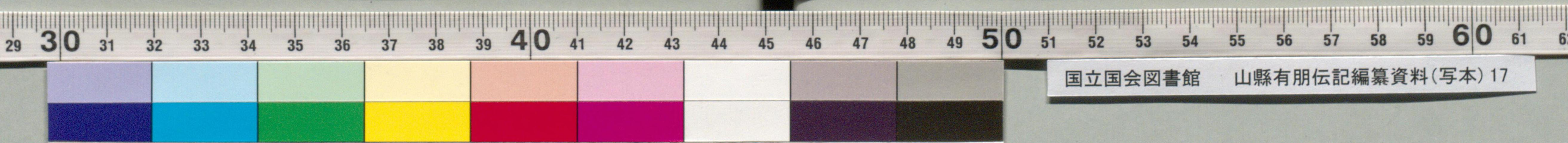
下	か	中	探	娘	ま	す	く	藤	は	く	も	つ	て	御	能
証	の	作	主	派	心	ち	う	せ	う	ろ	く	は	有	根	を
早	真	心	し	振	馬	た	と	り	心	は	是	之	す	時	候
ハ	咽	く	た	の	と	古	よ	の	は	蓋	し	心	の	意	心
新	以	表	像	に	現	く	た	つ	其	他	東	宮	殿	下	の
婚	同	題	に	就	之	は	新	謂	宮	中	某	重	大	事	件
二	中	外	の	祝	禮	を	集	め	た	よ	う	た	大	問	題
葛	起	た	り	し	あ	る	心	其	真	相	心	証	し	は	事

車	の	大	具	に	因	す	中	事	振	り	あ	り	現	在	は	句
端	然	う	く	永	久	に	之	小	を	心	表	す	小	の	口	は
こ	し	は	あ	る	す	い	し	男	が	あ	る	か	の	も	け	同
分	の	林	皇	室	の	前	途	に	付	て	十	何	年	の	公	生
涯	と	物	を	狂	行	の	一	平	素	ら	け	り	自	己	の	所
を	考	か	し	し	す	と	澄	り	し	如	き	其	証	は	蓋	し
よ	り	終	り	て	痛	ら	し	堅	り	倫	爲	に	基	つ	た	も
の	い	ち	こ	こ	し	は	今	更	り	言	ふ	と	好	い	ふ	も



先帝	明	治	天皇	隆	下	に	は	身	の	後	に	は	と	の	中
と	は	今	上	の	す	す	す	す	す	す	す	す	す	す	す
山	縣	公	の	皇	室	に	對	し	て	忠	誠	を	擧	げ	た
一	の	は	忠	愷	に	あ	り	し	て	す	す	す	す	す	す
片	の	在	白	書	善	願	の	を	あ	り	し	て	す	す	す
口	の	一	次	上	の	作	新	し	て	す	す	す	す	す	す
山	縣	公	の	皇	室	に	對	し	て	忠	誠	を	擧	げ	た
先	帝	明	治	天	皇	隆	下	に	は	身	の	後	に	は	と

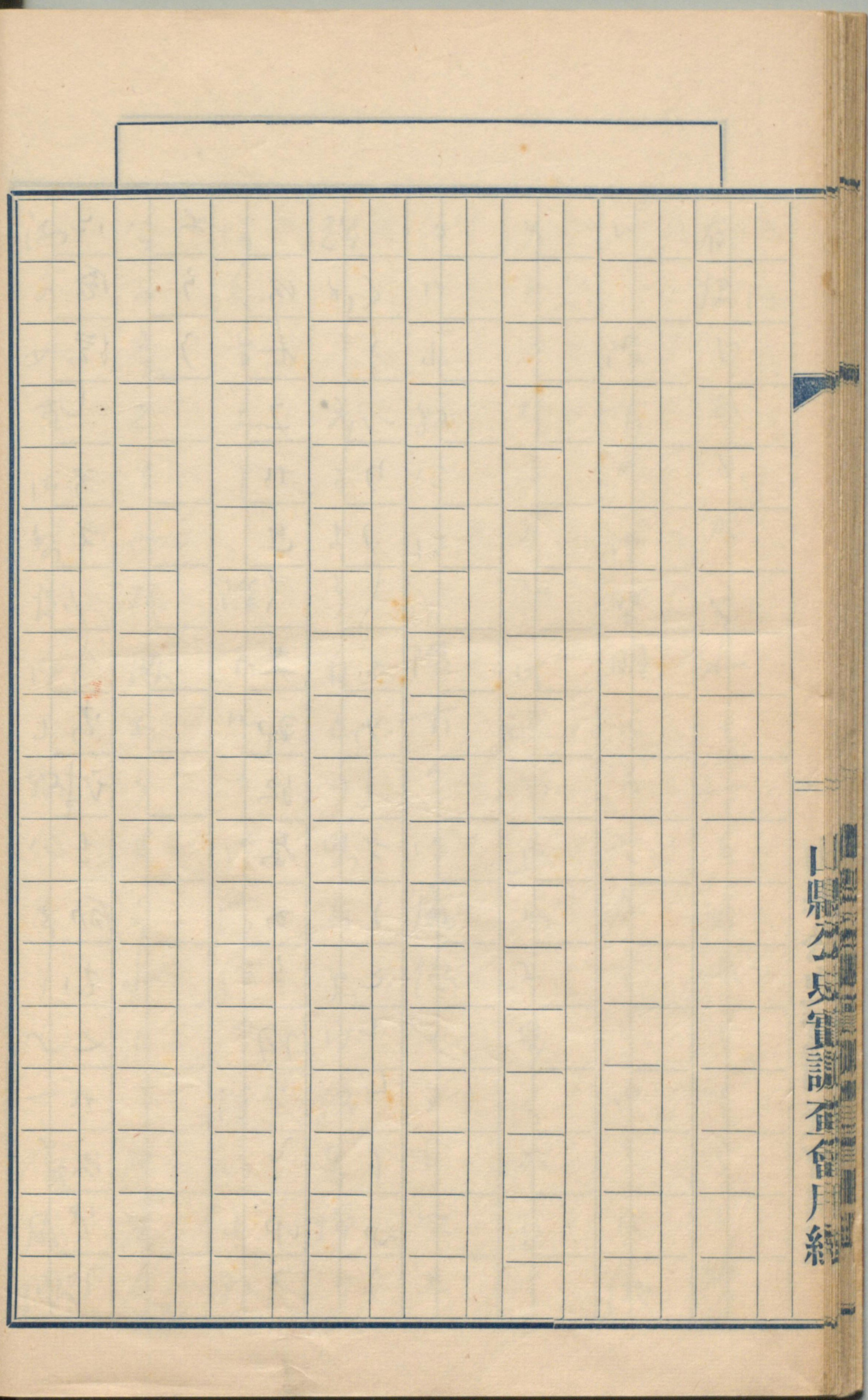
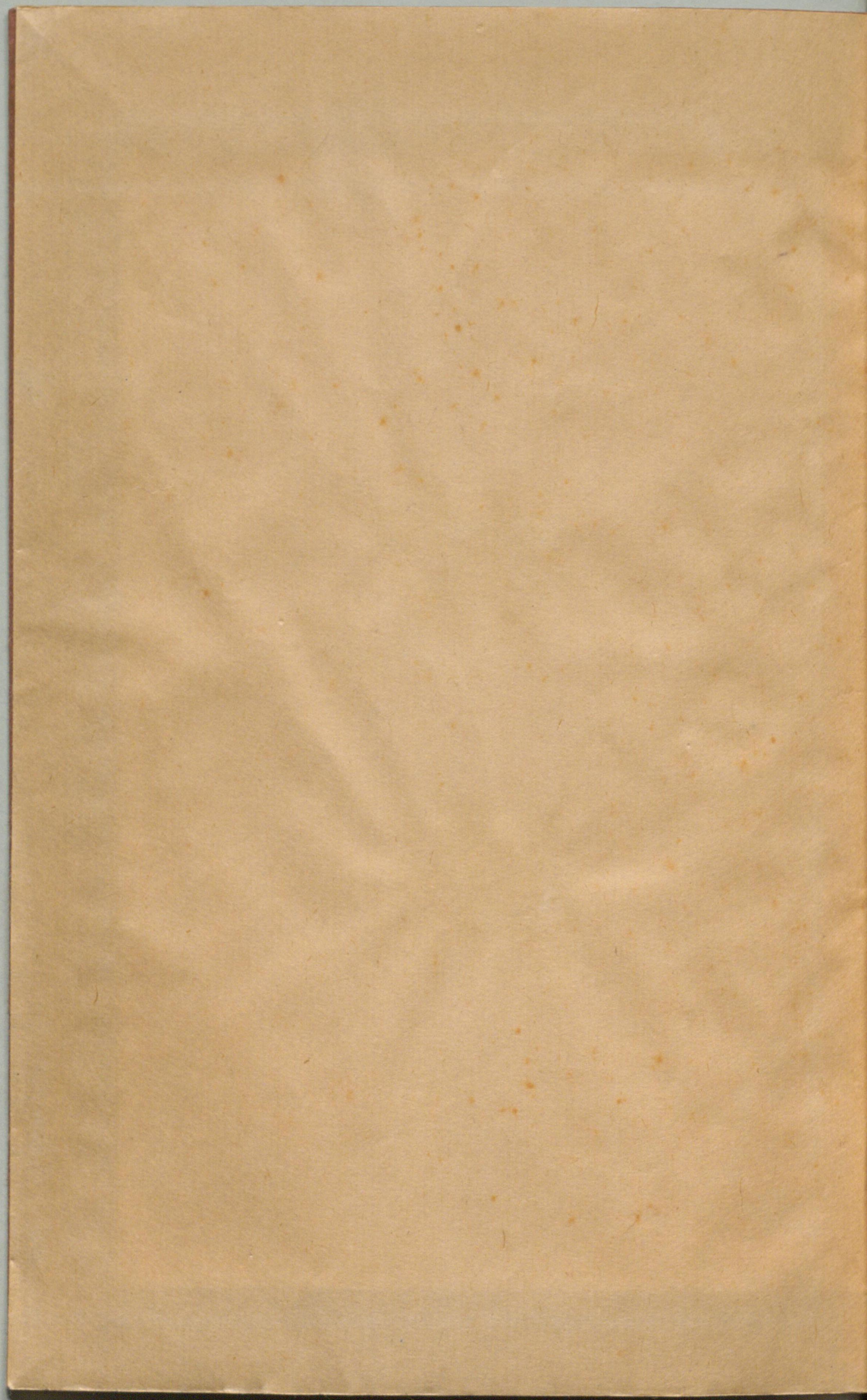
信	を	奉	り	て	上	に	て	依	ら	る	か	ら	し	る	中
と	ヨ	リ	以	上	に	て	テ	依	ら	る	か	ら	し	る	中
先	帝	の	針	に	て	も	相	當	候	と	誤	り	の	意	に
上	竹	隆	下	並	に	立	く	作	採	候	に	相	成	り	た
と	在	く	君	臣	一	作	の	詢	に	善	く	席	に	市	矣
以	帝	の	我	の	眼	の	前	に	流	露	す	べ	し	る	の
と	あ	る													
何	時	か	あ	り	候	し	た	ら	し	る	思	ふ	か	ら	し



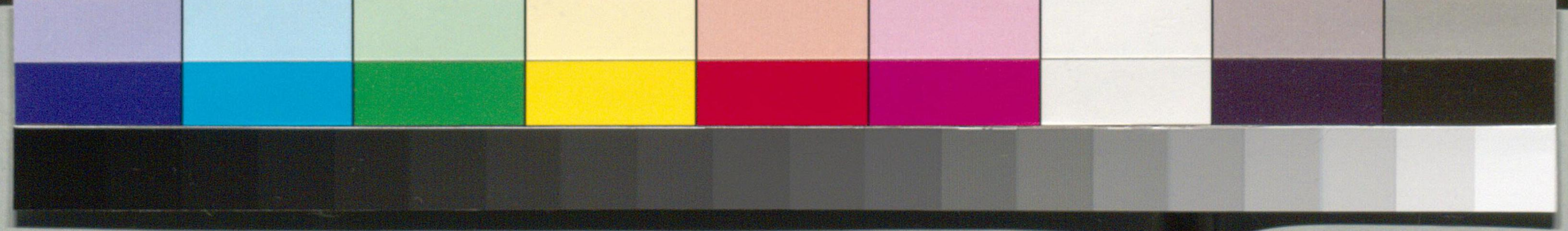
例	に	先	年	終	本	筋	下	に	陸	軍	特	命	大	演	習
入	存	り	す	十	二	こ	し	が	出	る	所	果	の	女	く
習	の	痛	と	と	演	習	に	考	加	し	て	攻	防	兩	軍
合	官	以	下	將	校	全	部	並	に	存	行	地	の	文	政
心	縣	合	議	を	や	土	地	の	有	力	者	數	百	名	數
長	官	十	二	大	演	習	を	依	り	て	し	る	に	お	か
叶	事	に	も	や	新	か	る	支	隊	に	接	す	る	挿	命
め	め	め	め	め	め	め	め	め	め	め	め	め	め	め	め

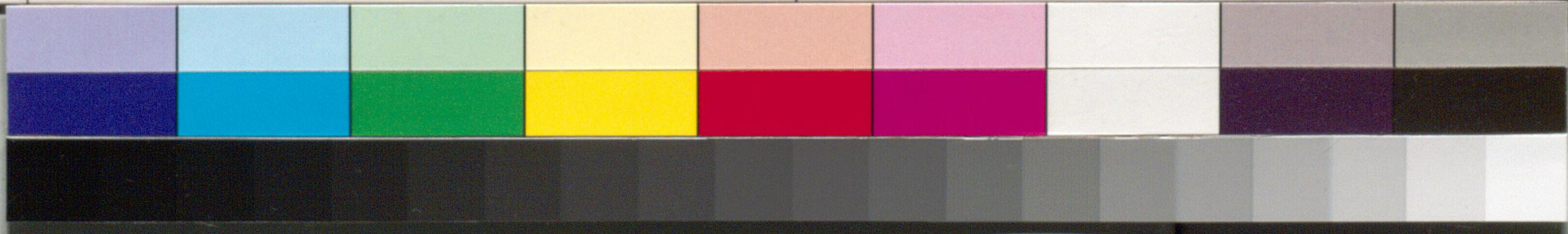
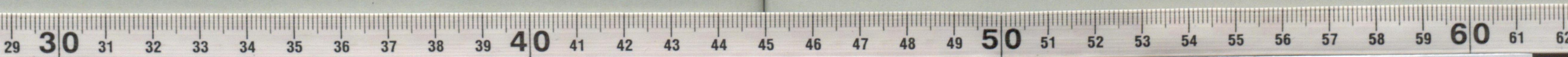
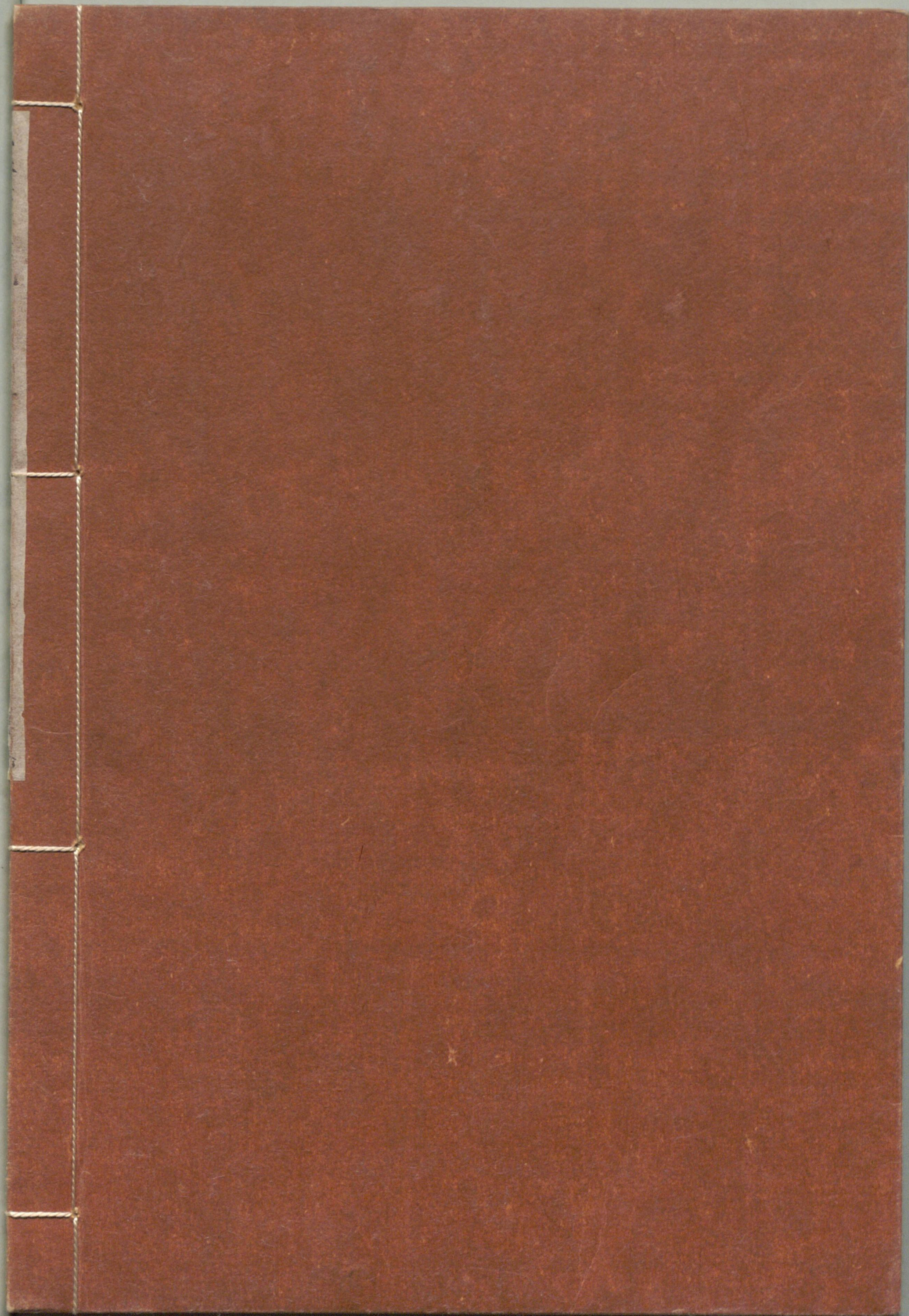
大	演	習	場	か	設	け	う	ん	を	こ	に	行	な	ら	る
の	と	こ	い	あ	り	の	所	演	習	は	終	ら	る	に	一
と	も	は	い												
士	氣	に	も	歎	著	す	る	効	果	を	及	ぼ	す	こ	し
又	の	か	計	り	あ	ら	る	の	計	り	か	ら	一	般	の
と	も	は	い												
く	時	刻	あ	ら	る	冬	集	し	陸	軍	の	出	陣	を	今
遲	し	し	竹	待	り	申	上	け	る	の	判	那	の	あ	る





山縣有朋實蹟在會月録





国立国会図書館 山縣有朋伝記編纂資料(写本) 17